

# 現存する野越しについて

---

平成28年 1月14日

国土交通省 九州地方整備局

# ① 野越しの現状（位置）

○城原川の上流部（8k500～11k500）には、江戸時代に成富兵庫茂安によって築造された「野越し」といわれる、堤防の一部を低くすることで洪水の水を川の外に溢れさせる施設が9箇所存在しています。

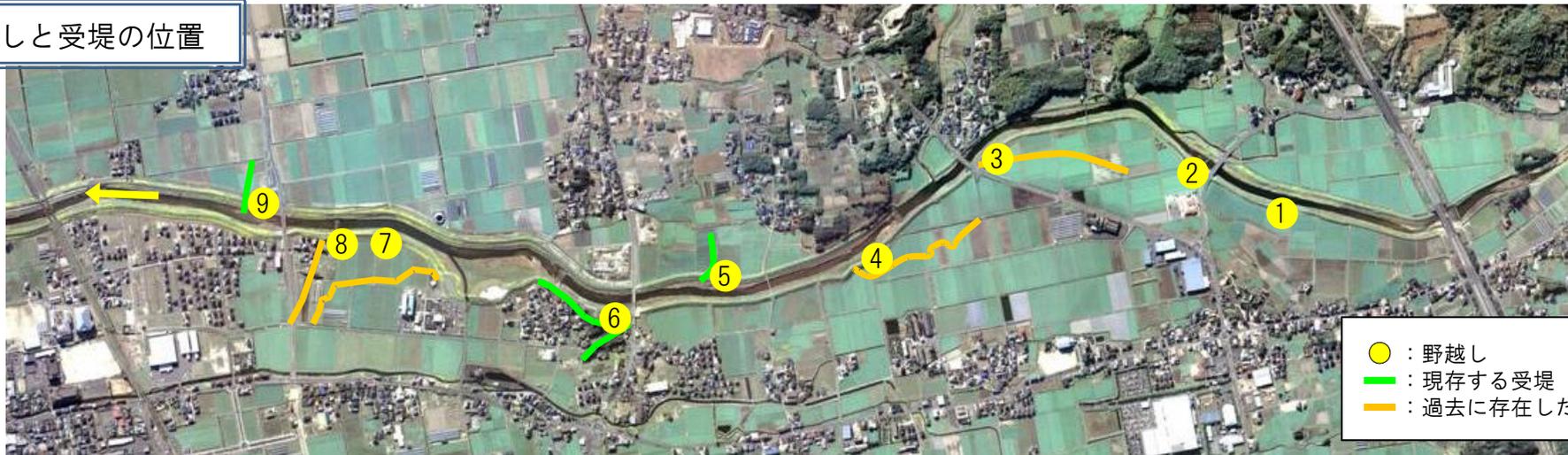
城原川に現存する野越し（位置図）



# ① 野越しの現状（位置）

○昭和30年代の洪水において野越しから水が溢れたことから、昭和40年代前半に掛けて野越しの一部がかさ上げされ、現在の高さとなり、平成元年、野越しから越流した水を受け止めるための堤防である「受堤」の一部が撤去されました。現在の野越しは、長さ14～50mに渡り、周辺の堤防より0.5m～2m程度低い構造となっています。

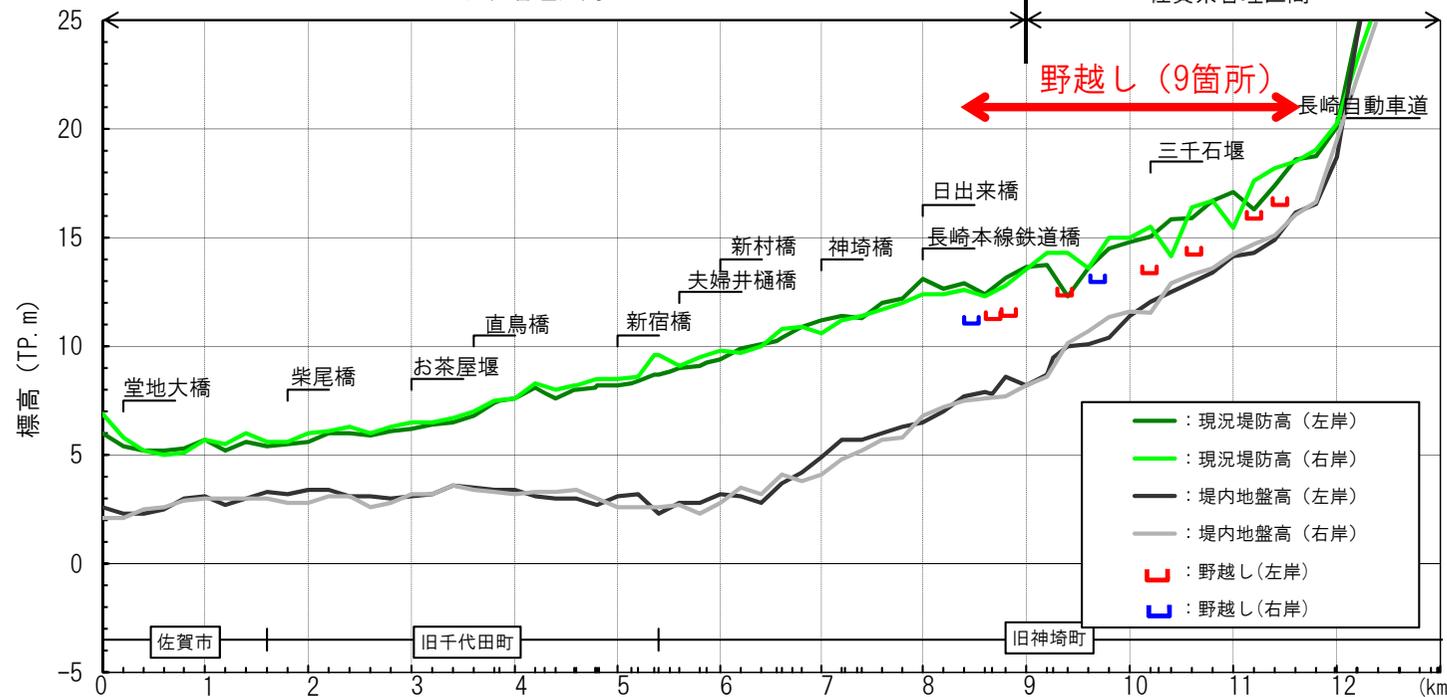
野越しと受堤の位置



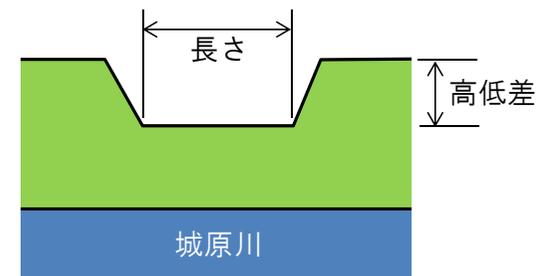
- : 野越し
- : 現存する受堤
- : 過去に存在した受堤

大臣管理区間

佐賀県管理区間

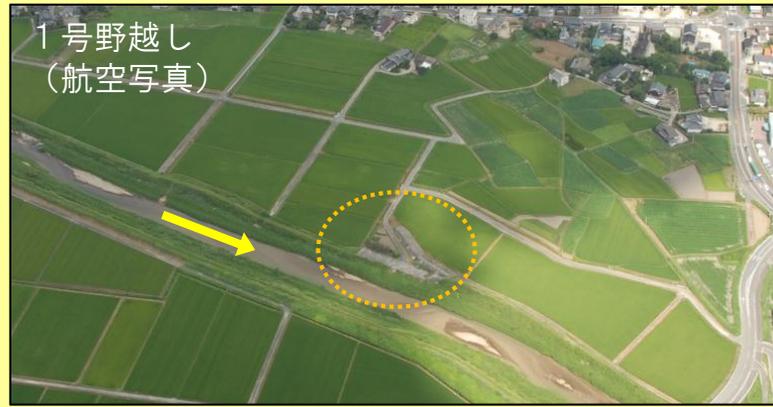
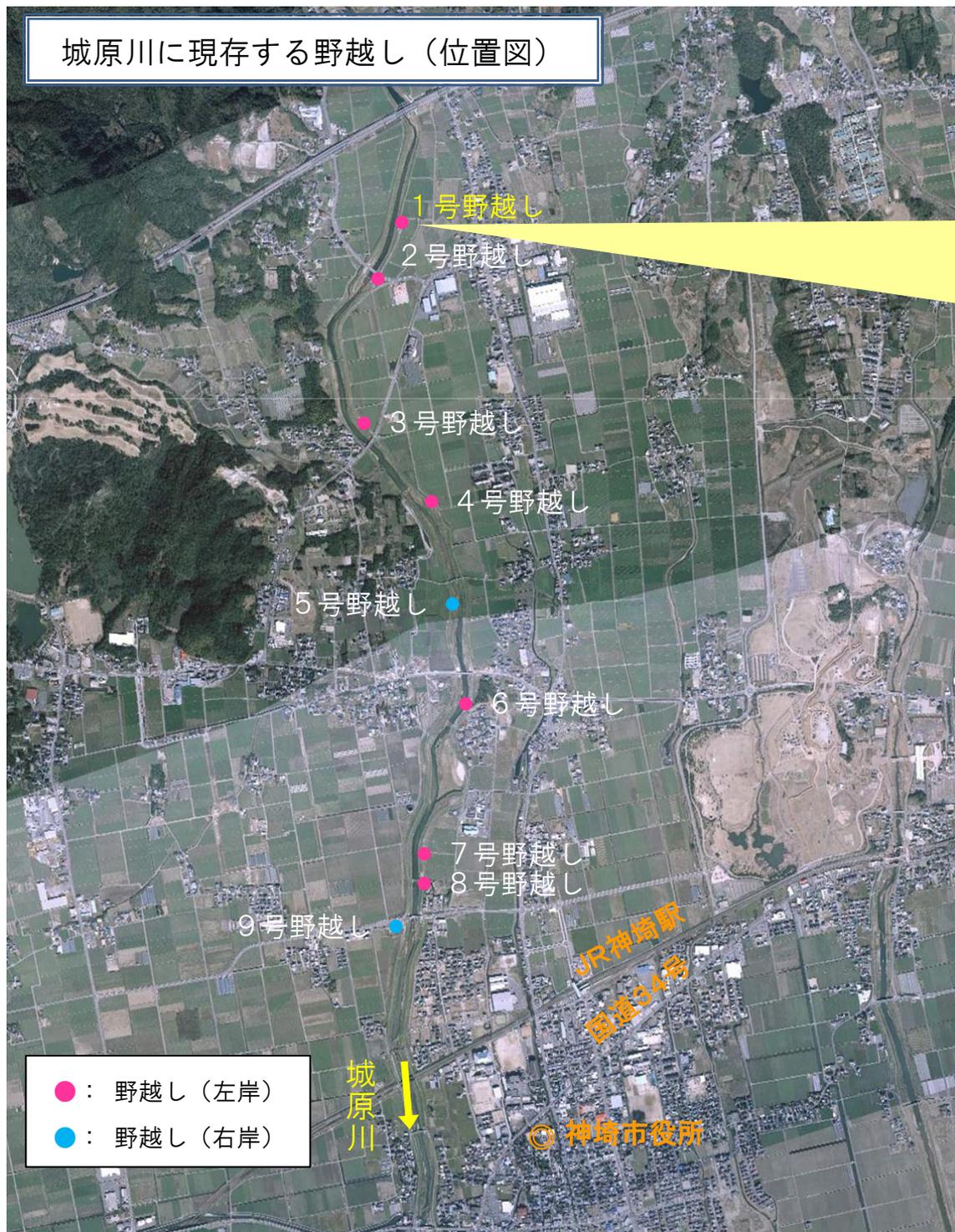


野越し断面図 (諸元の名称)



# ① 野越しの現状（諸元）

城原川に現存する野越し（位置図）



1号野越し  
(航空写真)

■位置：11k470（左岸） ■長さ：50.0m  
■高低差（上流側）：1.45m （下流側）：1.06m



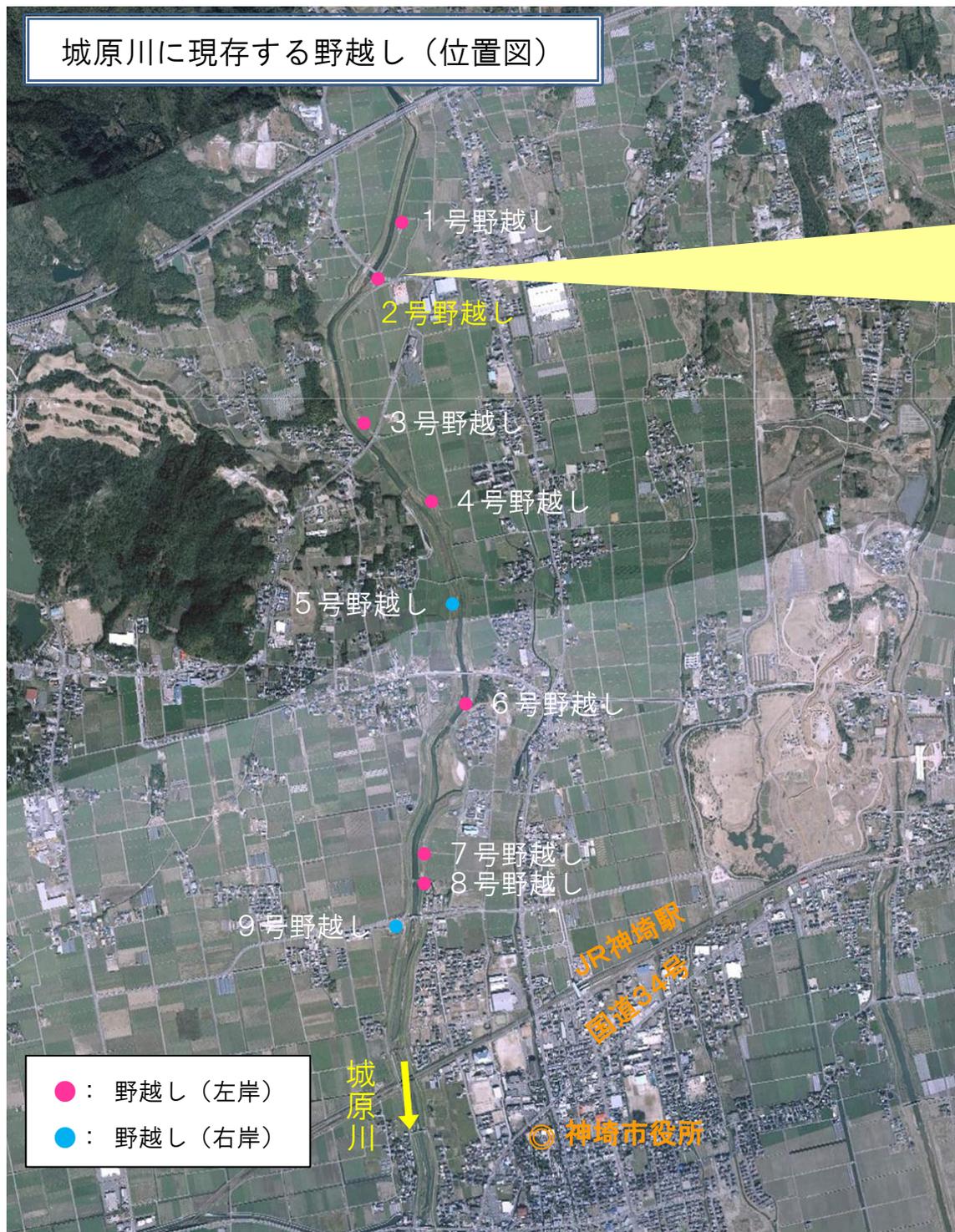
(正面)



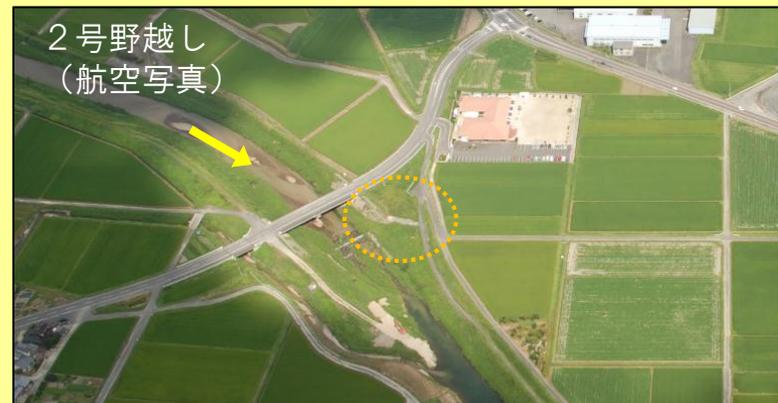
(近景)

# ① 野越しの現状（諸元）

城原川に現存する野越し（位置図）



2号野越し  
（航空写真）



■位置：11k210（左岸） ■長さ：21.0m  
■高低差(上流側)：2.18m （下流側）：0.49m

（正面）

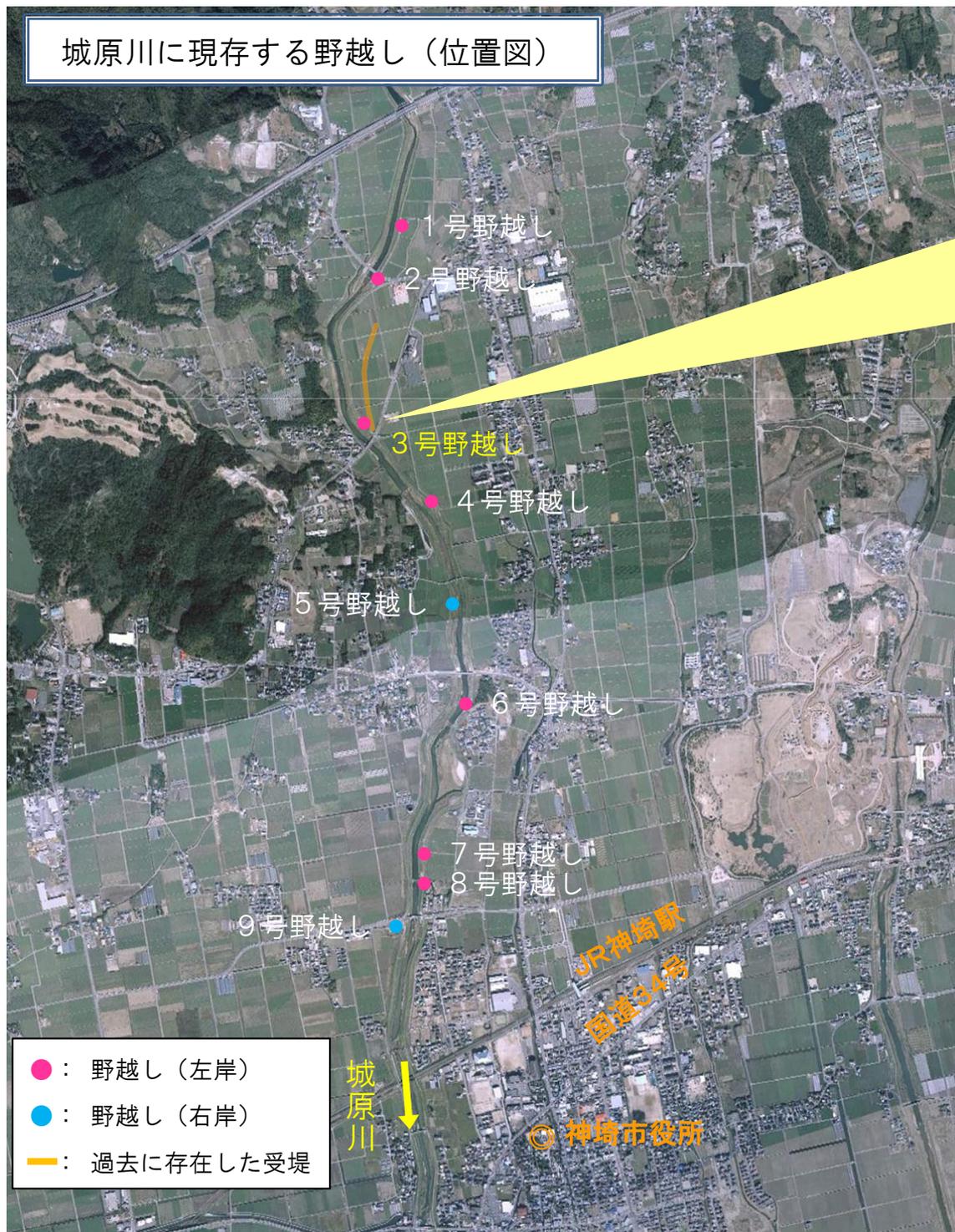


（近景）



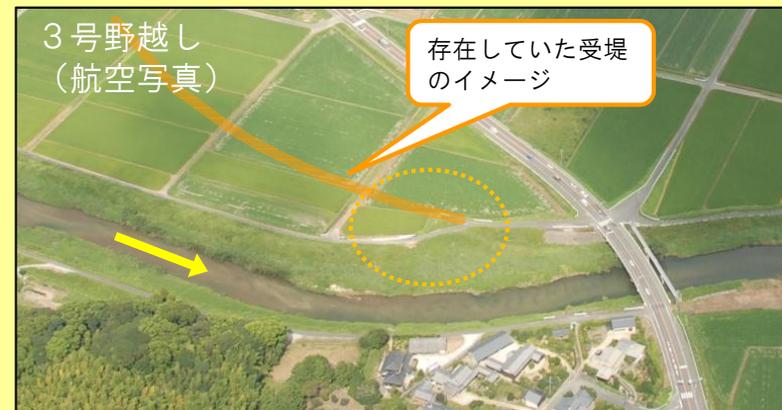
# ① 野越しの現状（諸元）

城原川に現存する野越し（位置図）



3号野越し  
(航空写真)

存在していた受堤のイメージ



- 位置：10k630（左岸） ■長さ：14.0m
- 高低差(上流側)：1.78m （下流側）：1.22m

(正面)

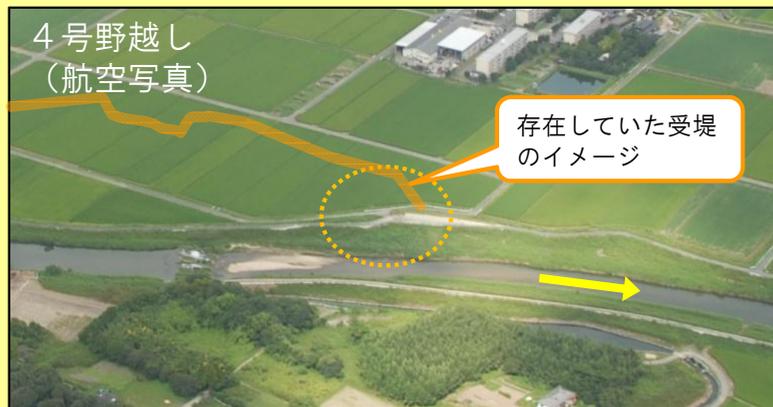
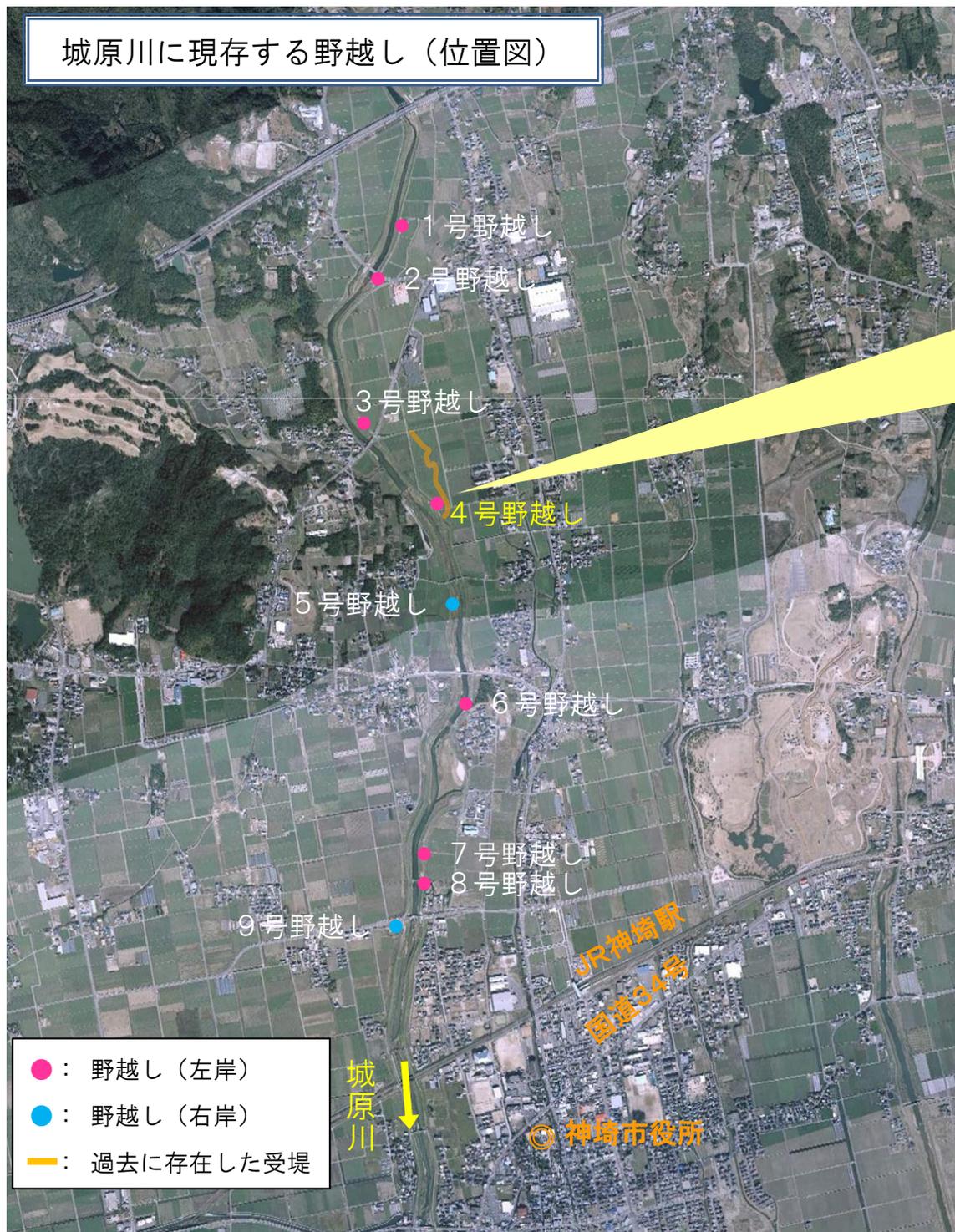


(近景)



# ① 野越しの現状（諸元）

城原川に現存する野越し（位置図）

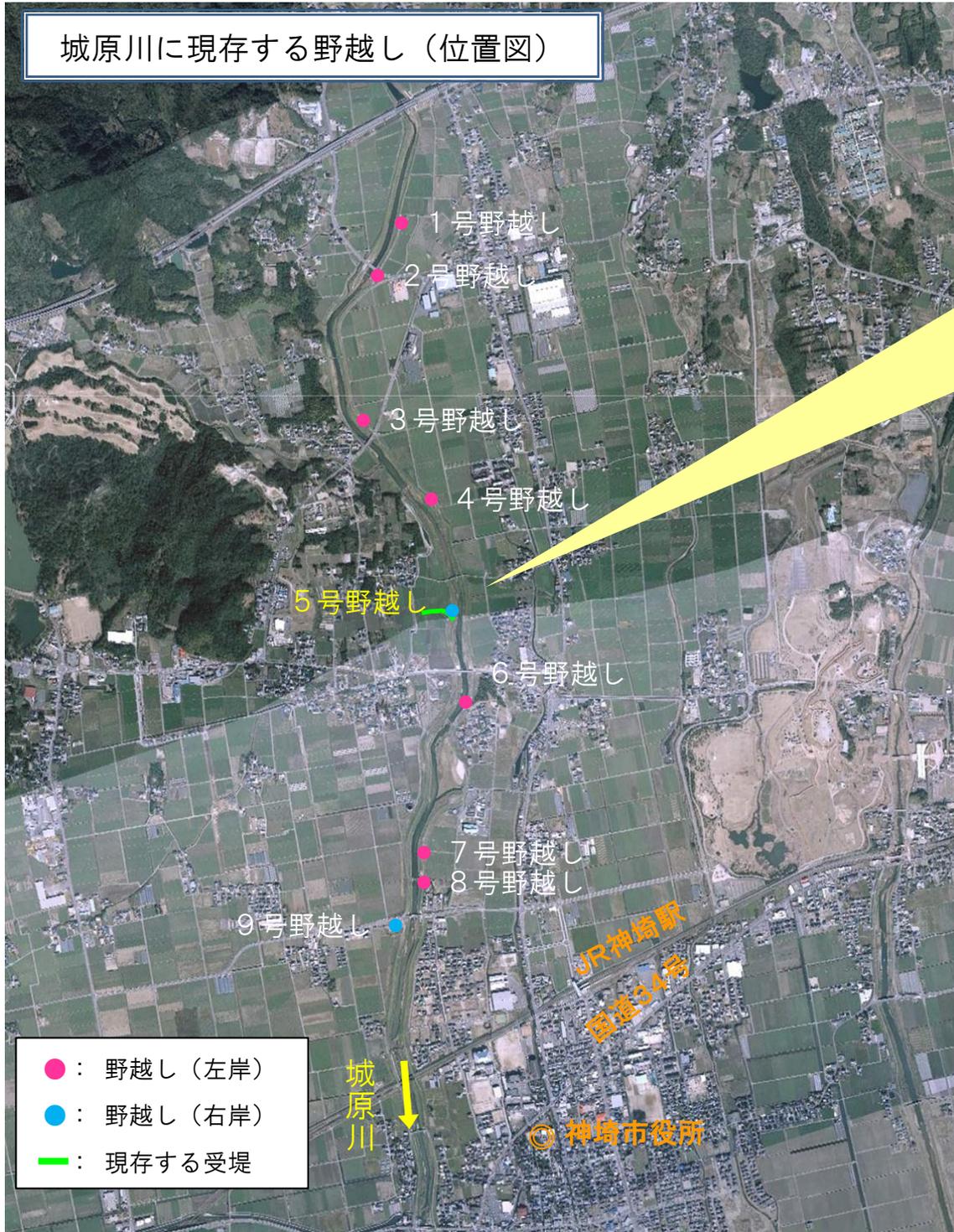


■位置：10k180（左岸） ■長さ：24.7m  
■高低差(上流側)：1.84m （下流側）：1.12m

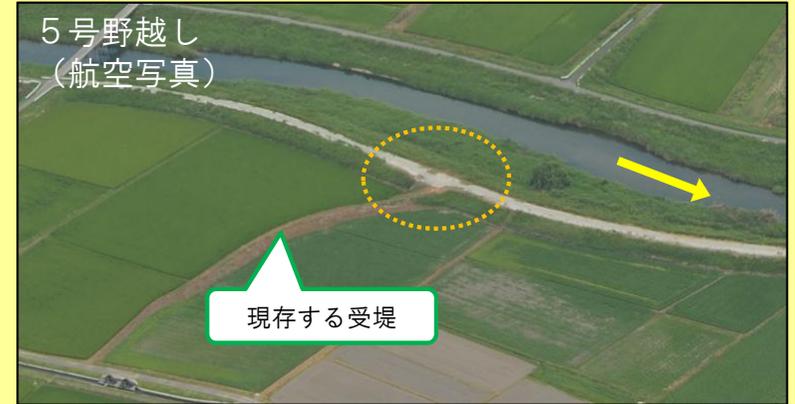


# ① 野越しの現状（諸元）

城原川に現存する野越し（位置図）



5号野越し  
（航空写真）



■位置：9k700（右岸） ■長さ：14.0m  
■高低差（上流側）：1.80m （下流側）：1.87m

（正面）

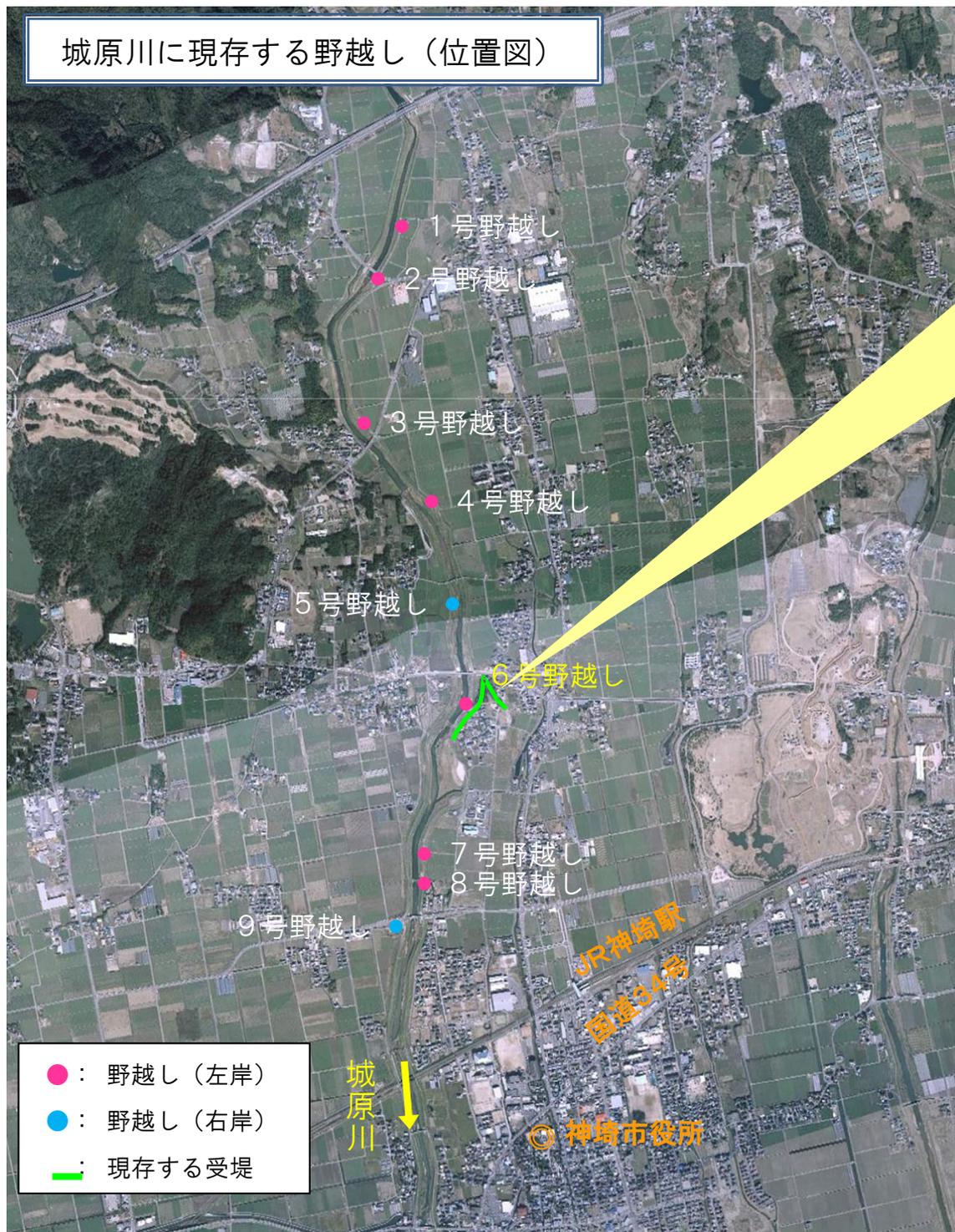


（近景）



# ① 野越しの現状（諸元）

城原川に現存する野越し（位置図）



6号野越し  
（航空写真）



■位置：9k380（左岸） ■長さ：38.5m  
■高低差(上流側)：1.43m（下流側）：1.41m

（正面）



6号野越し  
（近景）



# ① 野越しの現状（諸元）

城原川に現存する野越し（位置図）



7号野越し  
（航空写真）



■位置：8k820（左岸） ■長さ：22.0m  
■高低差（上流側）：1.51m （下流側）：1.36m

（正面）



（近景）



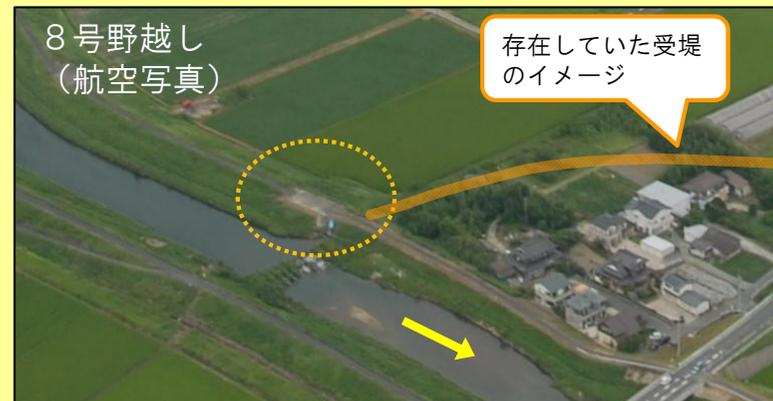
# ① 野越しの現状（諸元）

城原川に現存する野越し（位置図）



8号野越し  
（航空写真）

存在していた受堤  
のイメージ



■位置：8k700（左岸） ■長さ：24.1m  
■高低差（上流側）：1.38m （下流側）：1.17m

（正面）

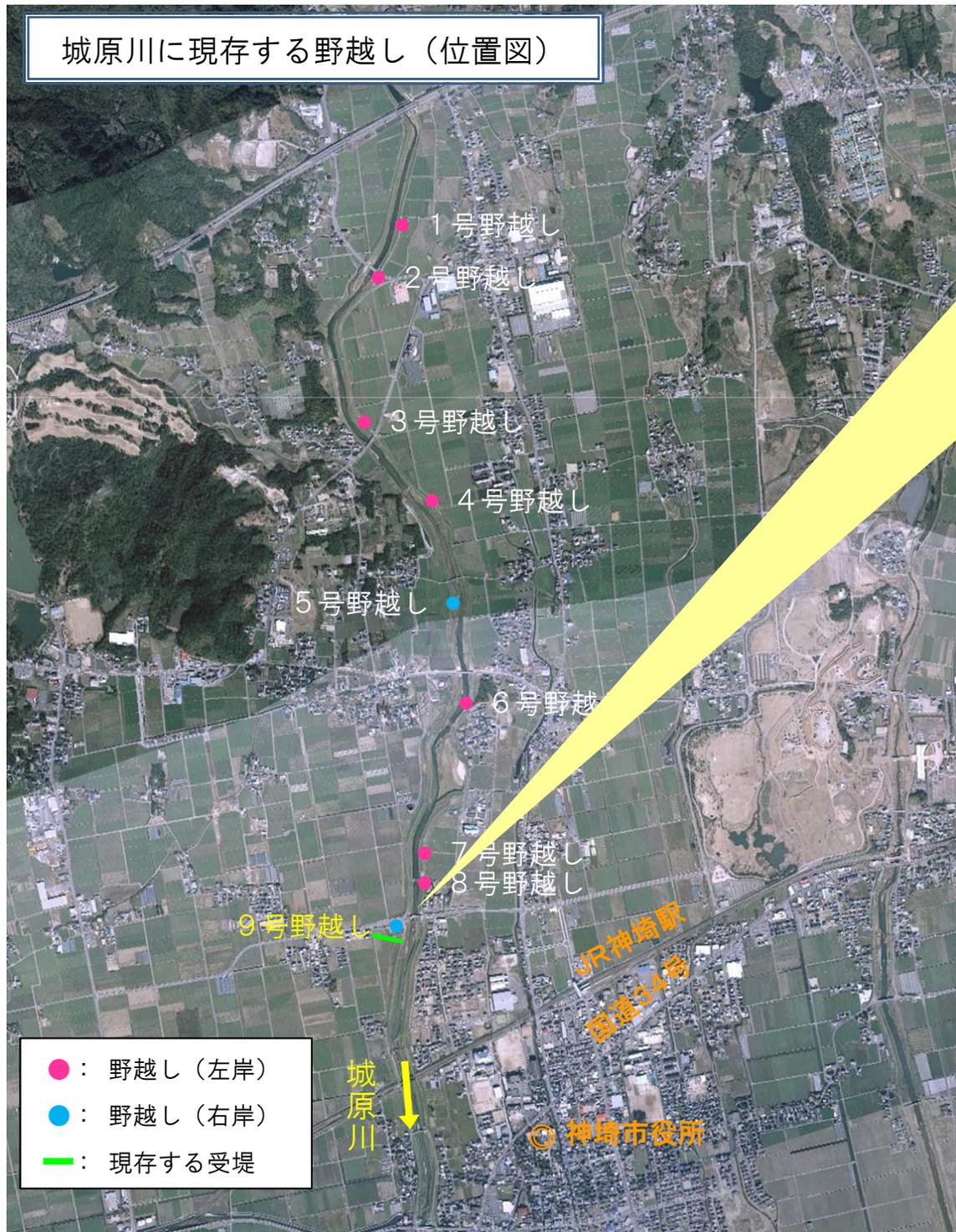


（近景）

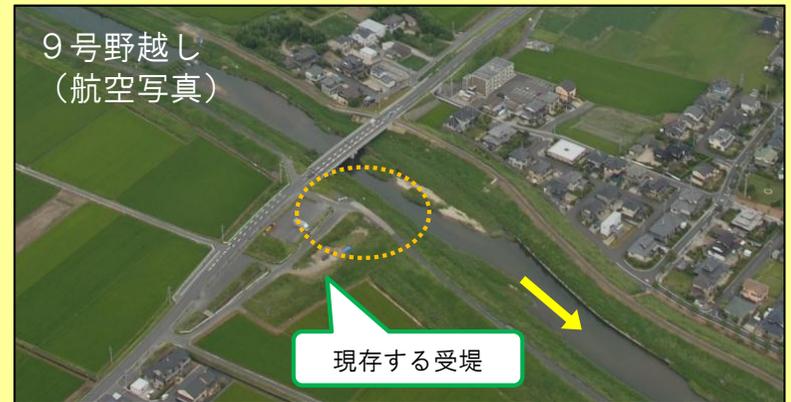


# ① 野越しの現状（諸元）

城原川に現存する野越し（位置図）



9号野越し  
（航空写真）



■位置：8k460（右岸） ■長さ：22.0m  
■高低差（上流側）：0.86m （下流側）：1.32m

（正面）



（近景）



# ① 野越しの現状（洪水時）

○平成21年7月出水では、5箇所の野越しから水が溢れました。

## 城原川の野越し箇所

- 野越し箇所
- 今回の出水により越水した野越し箇所

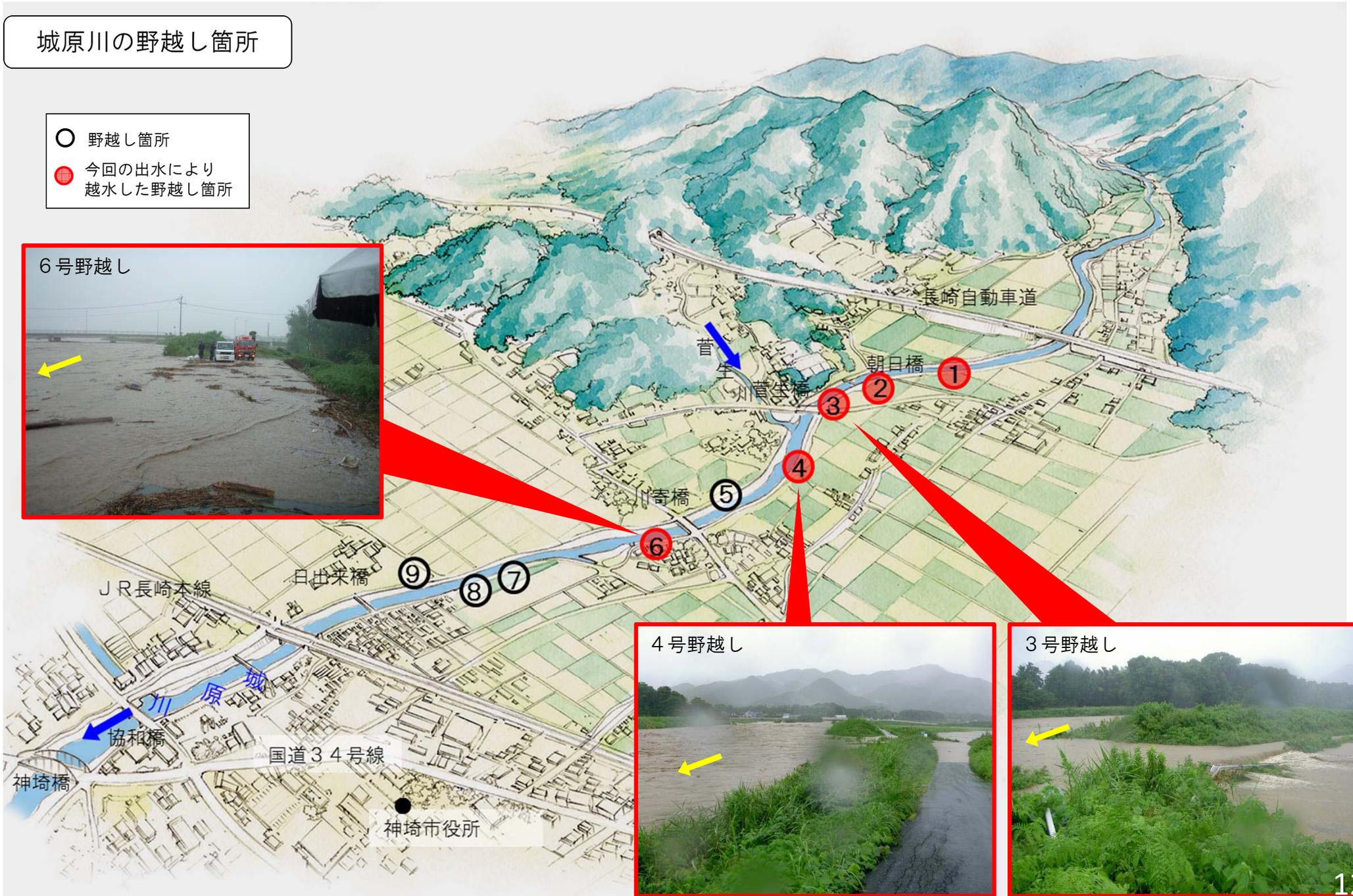
6号野越し



4号野越し



3号野越し

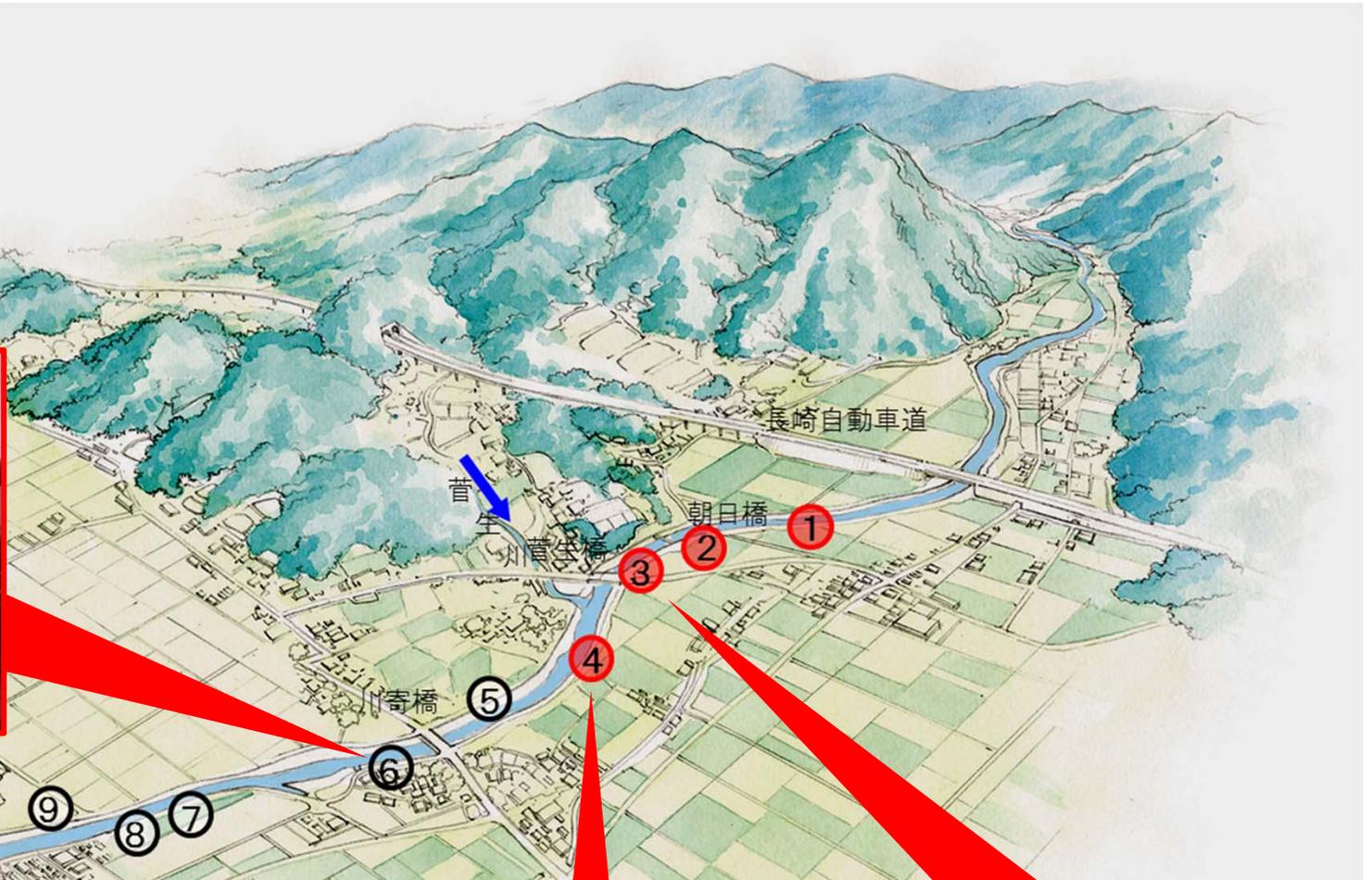


# ① 野越しの現状（洪水時）

○平成22年7月出水では、4箇所の野越しから水が溢れました。

## 城原川の野越し箇所

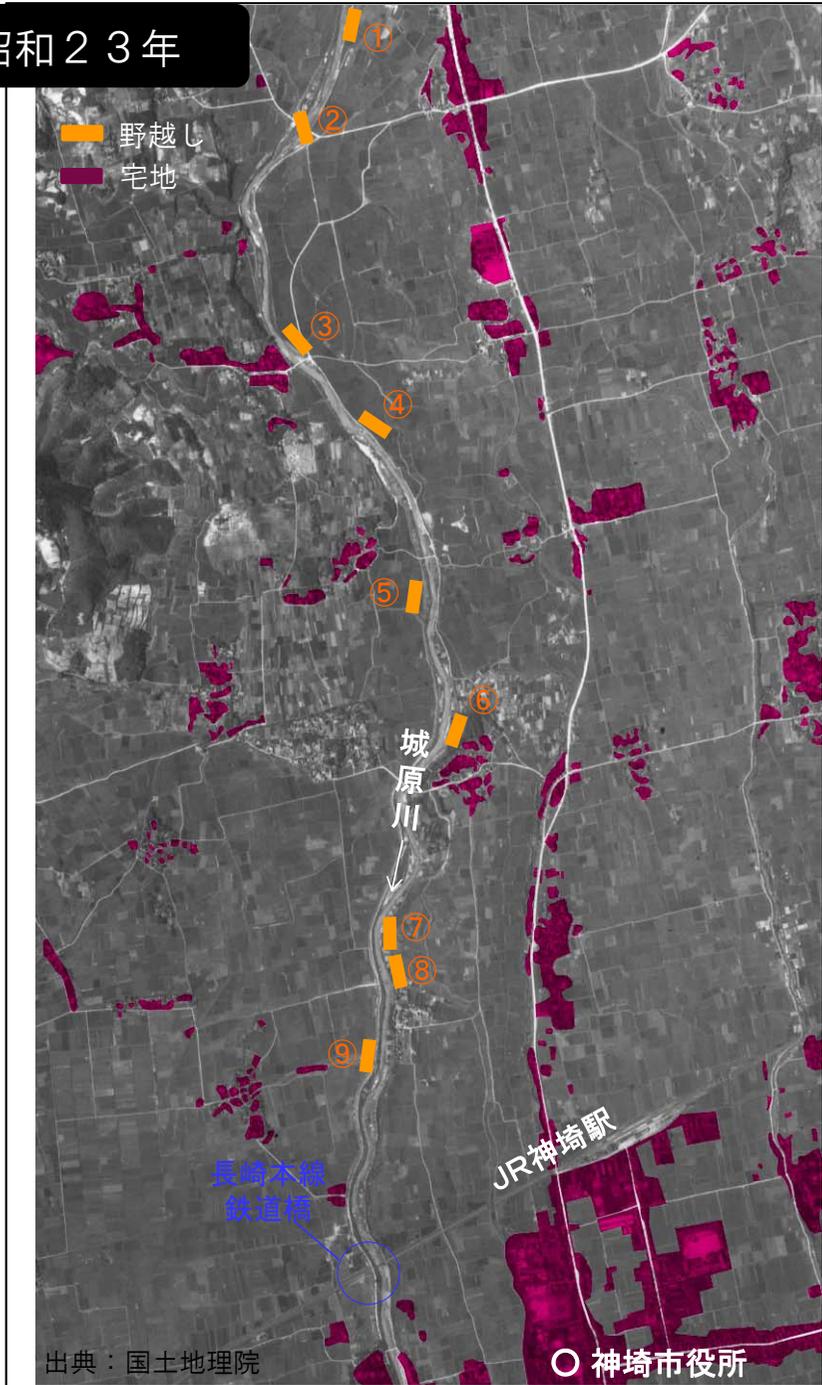
- 野越し箇所
- 今回の出水により越水した野越し箇所



## ② 野越し背後地の土地利用変遷

○野越しの背後地は宅地化が進んでいます。

昭和23年

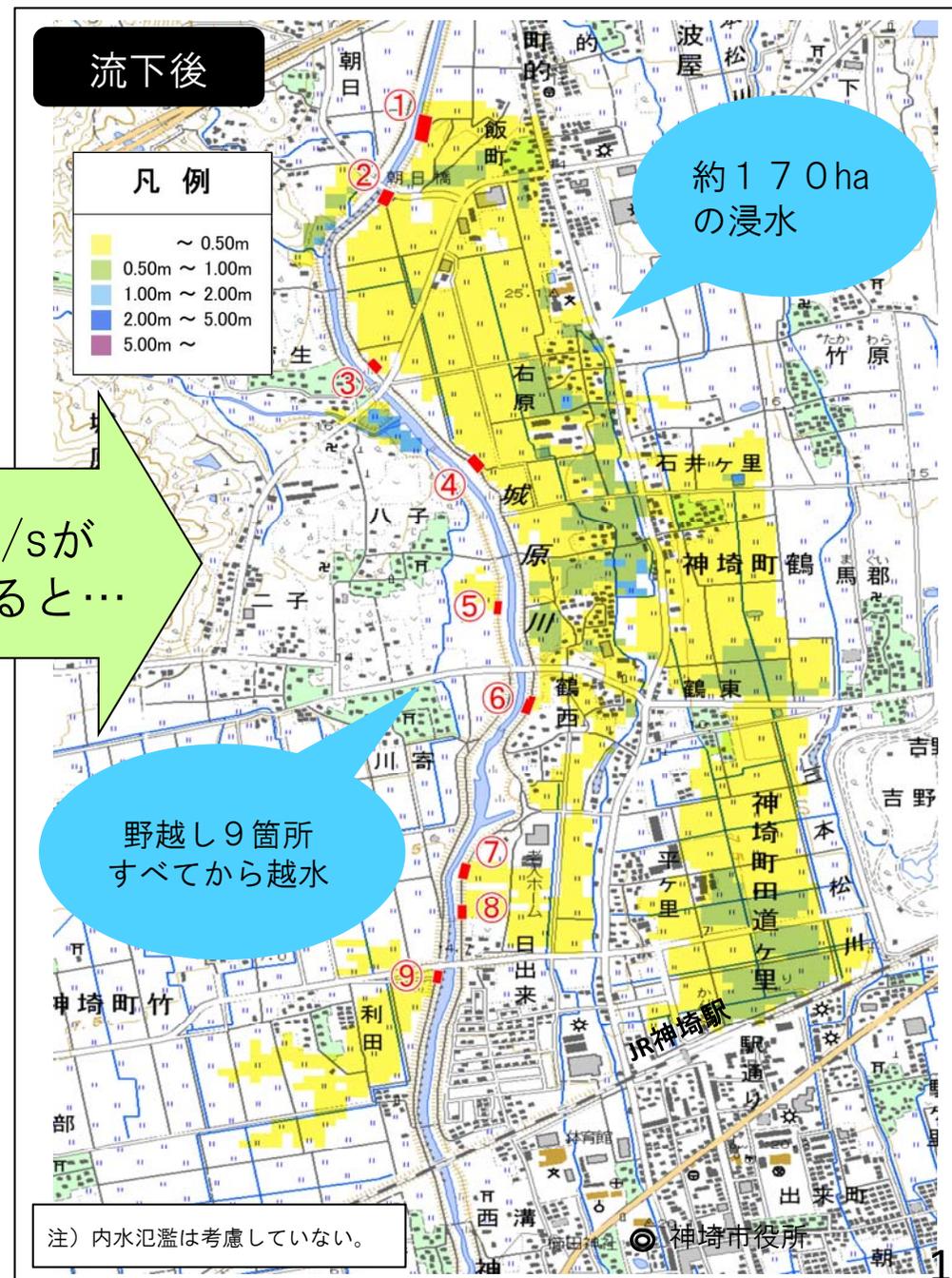


平成18年



### ③ 越水シミュレーション（整備計画流量540m<sup>3</sup>/s流下時）

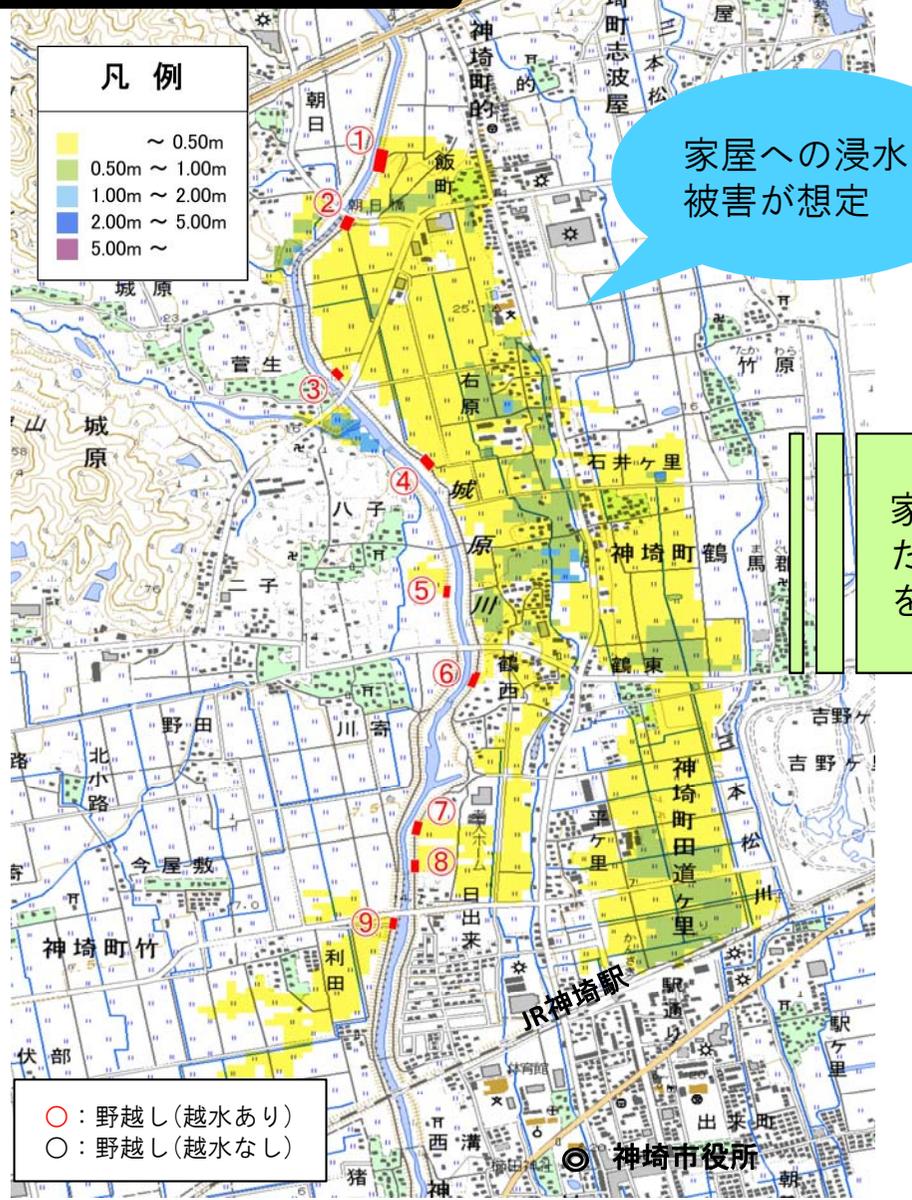
○現況の野越し（9箇所）を存置した状態で整備計画流量540m<sup>3</sup>/sが流下した場合、野越し9箇所すべてから越水し、約170haの浸水被害が発生すると想定されます。



# ④ 今回検証における野越し存置の考え方

○今回検証において、野越しを存置する場合の治水対策案の立案にあたっては、野越しを存置したままでは家屋への浸水が想定されることから、家屋に影響のない範囲で堤防（受堤）を設置し、越水した洪水から家屋等の浸水被害を防ぐことを前提としています。

## 野越しを現存した場合



家屋への浸水被害が想定

家屋浸水を防ぐため受堤の設置を前提とする。

## 今回の検証における考え方

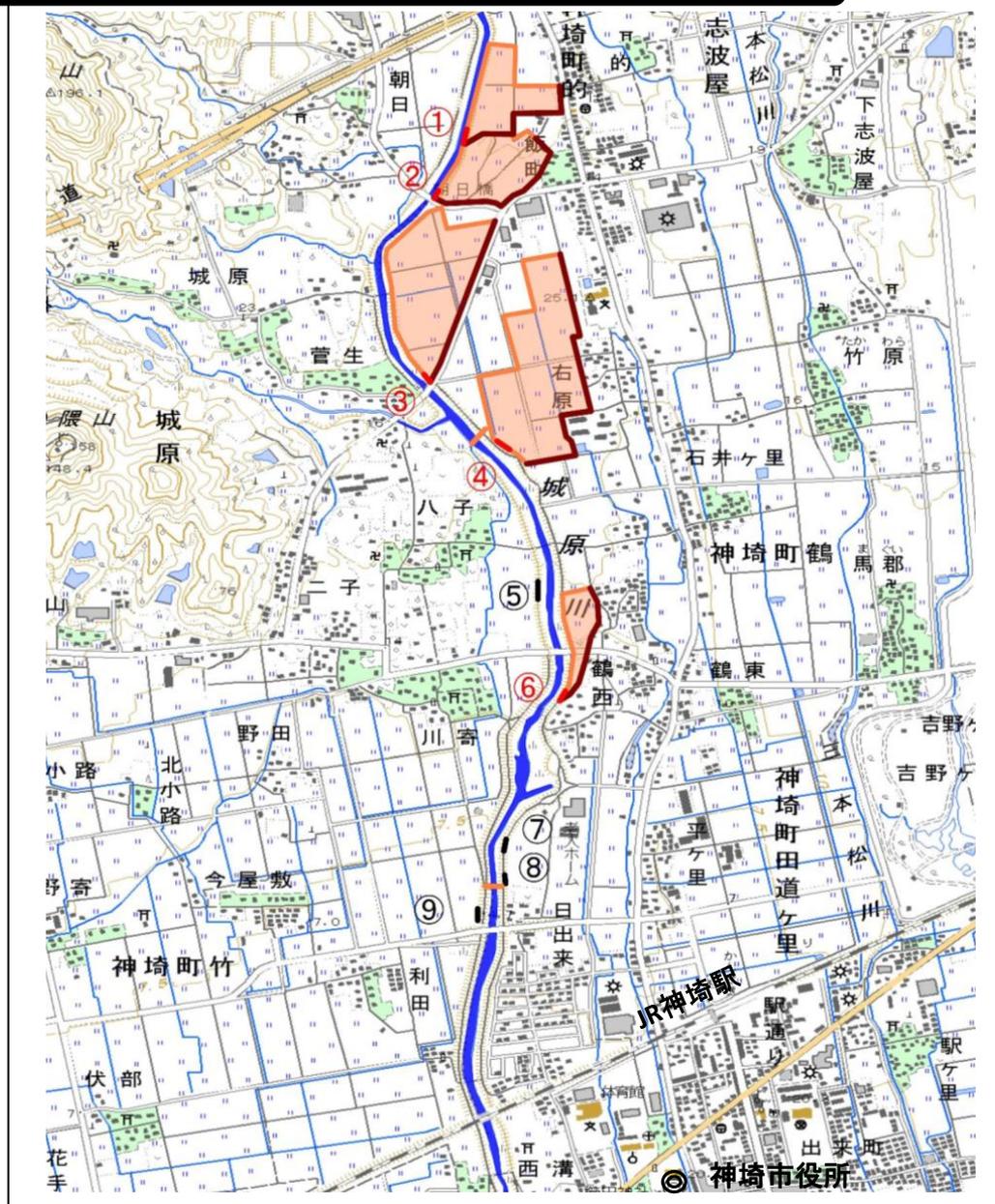


家屋に影響が無いように受堤を設置

## ⑤ 野越しを存置する場合の治水対策案の考え方（野越しの効果）

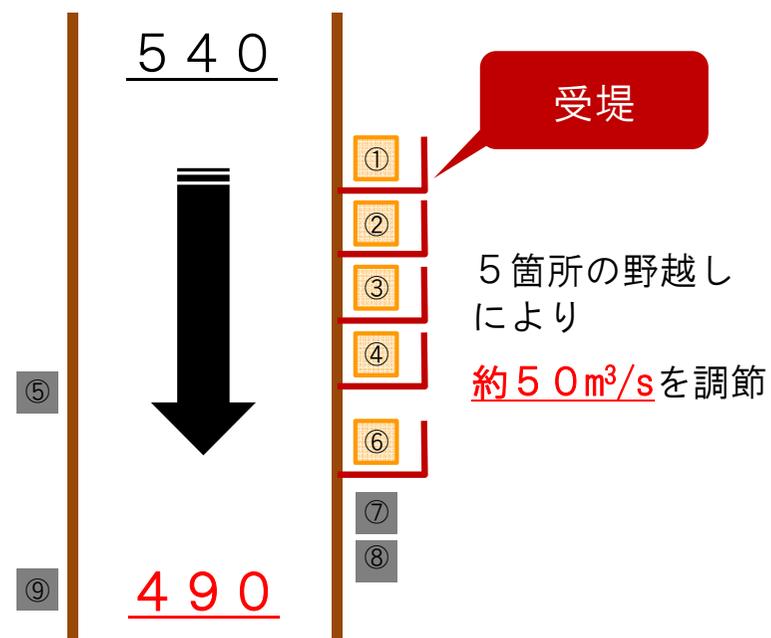
○現在の野越しを存置し活用しても、整備計画目標流量の $540\text{m}^3/\text{s}$ に対し、約 $50\text{m}^3/\text{s}$ の洪水調節が可能であるが、残り $490\text{m}^3/\text{s}$ の流量を安全に流すため、他の方策（遊水地、河道掘削等）との組合せが必要となります。

### 野越しを存置した場合の治水対策案（イメージ）



### 《 流量配分図 》

単位： $\text{m}^3/\text{s}$



河川整備計画流量を安全に流すためには、現在の野越しを存置するだけでは不足するため、他の治水方策との組合せが必要となる。

# ⑥ 野越しを存置する場合の治水対策案の組み合わせ

○今回検証において立案した既存の野越しを活用した主な治水対策案は、野越しの存置の他、河道掘削や遊水地などの治水対策を組合せた上で立案及び概略評価により抽出しています。

対策案 (グループ5)	治水対策案⑭	治水対策案⑮	治水対策案⑯	施設配置イメージ (下記は治水対策案⑮⑯)
	流域対策＋野越し存置 ＋河道掘削	流域対策＋野越し存置 ＋地役権遊水地＋河道掘削	流域対策＋野越し存置 ＋掘込遊水地＋河道掘削	
概要	<p>単位：m<sup>3</sup>/s</p> <p>流域対策</p> <p>540</p> <p>(50) 野越し</p> <p>野越しの存置 ① ② ③ ④ ⑥</p> <p>↓</p> <p>490</p> <p>河道掘削</p> <p>日出来橋</p>	<p>単位：m<sup>3</sup>/s</p> <p>流域対策</p> <p>540</p> <p>(50) 野越し</p> <p>野越しの存置 ① ② ③ ④ ⑥</p> <p>↓</p> <p>490</p> <p>(80) 地役権遊水地</p> <p>↓</p> <p>410</p> <p>河道掘削</p> <p>地役権遊水地</p>	<p>単位：m<sup>3</sup>/s</p> <p>流域対策</p> <p>540</p> <p>(50) 野越し</p> <p>野越しの存置 ① ② ③ ④ ⑥</p> <p>↓</p> <p>490</p> <p>(110) 掘込遊水地</p> <p>↓</p> <p>380</p> <p>河道掘削</p> <p>掘込遊水地</p>	
概算事業費	約700億円	約660億円	約630億円	<p>凡例</p> <p>掘込遊水地(地役権・掘込)</p> <p>野越しの存置</p>
概略評価による抽出		○	○	